



16日(水)17日(木)、6年生が修学旅行に行ってきました。大雪も降りましたが子ども達は非常に嬉しそうでした。送り出してくださったおうちの方々のおかげで、修学旅行を終えることができました。ありがとうございました。

インターネットとの付き合い方

～洋野町生徒指導協議会「情報モラル講演会」～

12月10日(木)に、町内の小中学生を対象にした(株)グリーの方の講演がオンラインで行われました。機械に操作に慣れていることや、周りの人も気軽に使っているという時代の雰囲気に囲まれていることから、子ども達も何気に操作したり画面を進んでしまったりすることが多くなっているなか、上手に付き合わないと危険もあるということ、その危険は、よくよく教えていただくととんでもなく怖いことだったりするということが分かりました。いくつか話題になったことをご紹介します。



講演をメモしながら聞く5年生

些細な情報からその人の家まで分かる

例えば、「〇〇大学に通っています。」や「今度の引っ越した部屋は、駅から〇分でとても便利。大学からも、……。日当たりがよくて……」などという投稿があったとすると、その投稿からその人の家が分かってしまうということが紹介されました。本人は同じような人がたくさんいると思っても、このような情報だけで探そうと思えば探せるということでした。また、別な研修会では、小さな写真の投稿でも、写っていた電柱にある看板やジャージの色から地域が分かったり、名札を拡大すれば名前までも分かたりするということを知ったことがあります。

些細な情報と思っても、油断できるものではないようです。

ゲームやネット上で、小学生と仲良しになりたいと思っている大人は、危ないのではないか。

SNSに限らずゲームでも、コミュニケーション(会話)ができるものがあります。それも世界中の人とつながっているとしたらどうでしょう。

ネットでつながった人に誘われて事件に巻き込まれるというニュースがありますが、すでに種市の子供達も持っている機械もそういうことになりかねない機能があるということです。そして、画面の向こうに、よくないことを考えている人がいないと言い切れるのでしょうか。「こちらが悪いことをしようと思わないから大丈夫」ではなく、うまく巻き込まれてしまわないか心配です。

「友達限定」で広がる

ネットでなくてもそうですが、「内緒だよ」や「あなただから教えるけどね」はよくないということでした。その人を信用して伝えているのですが、伝えられた人が信用できる人に「内緒だよ」と言って伝わってしまうということは、ネットでなくてもある話です。気がついた時には、知らない人や伝えていない人が知っているということになります。また、内容や意味も違って伝わってしまうことともありがちです。

他にも、「炎上」で家族が何度の引っ越したケースとか、噂は確かに忘れられるが就職などの人生の大事な場面で思い出されて就職ができなくなったケースなど、いろいろな危険を教えてくださいました。ちょっとした気持ちで行ったことでも、取り返しのつかないことになるということ具体的に教えてくださいました。また、上手な付き合い方として、「家の玄関に書いて貼って困ることは投稿しないと考えればいいのです。だってネットは玄関の外側なのです。」とも教えてくださいました。

外とは、「人が見ている(聞いている)」ということですから見られて困ることは書かない・言わないということだと思います。加えて、「外」とは「公の場」ということですから、自分が困るだけでなく人に迷惑をかけたか不快な思いをさせたりするのはいけないということではないかと思っています。外に出るには子どもでも、責任が伴うものと思うのです。

裏面に 種小の状況載せています

種小の子で心配なこと

～アンケートの結果から～

SNS、ゲームなどの使用について、毎年行っているアンケートを先月行いました。その結果、本校でも心配なことが浮かび上がってきました。いくつかご紹介します。

「ネットを通じて知り合った人がいます」21人

「トラブルに巻き込まれたことがある」22人

- ・メールやLINE、ゲームなどで悪口や嫌なことを書かれたり言われたりしたことがある
- ・だれが送ったかわからないメールやLINEがたくさん届いたことがある
- ・チェーンメールが届いたことがある
- ・使っていないのに請求がきたことがある
- ・友人から9時以降もメールやLINEなどが送られてきたことがある
- ・ゲームで好きな人のことをばらされた
- ・外国から詐欺のようなものが届いた

「動画や画像をアップしたことがある」4人

そのうち1人は**「家の人は知らない」**と答えています。

「年齢制限があるゲームなのにやっている」多数48人

・アンケートから、種小の子どもがやっている制限があるゲームは8種類はあるようです。

全学年の子が応えているので、低学年には難しい質問で間違えて応えているところもあるかもしれません。心配なので念のため、各学級では、子ども達に確かめています。

年齢制限は世界中で行われている制度（レーティング制度）で、日本では「CERO（特定非営利活動法人）」が国内のゲームソフトについて審査しています。ゲームに次のような表示があるそうです。

◆新CEROレーティングマーク



◆旧CEROレーティングマーク



**乱暴な言葉が増えていませんか
イライラをしていることはありませんか**

「乱暴な言葉を使うなあ。」とか「イライラを抑えられないでいる子がいるなあ。」と思うときが種小でもあります。それには、ゲームの影響はないでしょうか。そのような影響を考えて、CEROの審査は、「暴力」「性的な表現」「犯罪」「言葉づかい」「思想」などの視点で行われています。

実際に使っているもの、今度買ってほしいと言われているものも、この表示を見て考えていただければと思います。世界では、罰則がある国もありますが、日本はありません。それでも、「よくないというものを預ける」ことは子どものためになるのか考えなければならないと思います。「大人と一緒にやっているからいいのでは？」は、他の年齢制限があるものと考えれば、やはりよいわけではないと考えます。「友達も持っている」とせがまれても、「ダメなものはダメ」と毅然と話したいです。また、この“制限があること”も子どもにはよい説明材料になるかと思えます。

耳障りなこととは思いますが、子どものことが心配でお伝えしています。クリスマス、正月と続き季節です。我々大人で子ども達のことを考えていきたいと思えます。学校、家庭が一緒になって考えていくことをお願いいたします。

※気をつけたいのは、アニメなどのキャラクターやCMで流れているものでも、品物によっては制限があるものもあることです。ぜひ、慎重に見ていきたいです。